

不妊手術済の猫「さくらねこ」 ブランディングを評価され受賞

5/27(水) 10:33 配信

Sippo

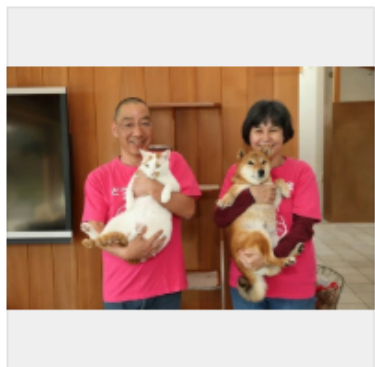


「どうぶつ基金」理事長の佐上邦久さんの愛猫「ミミ太」は元保護猫の「さくらねこ」

外猫さんの耳先がV字にカットされているのは、不妊手術が済んでいる印。もともところした猫は「耳先カットねこ」などと呼ばれていたが、2012年10月、「さくらねこ」という名前が誕生。

[【写真】街に暮らす耳カットの猫たち 愛すべきコミュニティキャット](#)

ブランディングを評価する初のアワードで受賞



佐上さんと妻の悦子さん。愛猫「ミミ太」と元保護犬の「さくら」を抱いて

名付け親の「公益財団法人どうぶつ基金」の佐上邦久さんによると「『さくらねこ』は、石垣島一斉TNR活動のとき、石垣市長らとの相談の末に生まれた名前です。日本で一番早く桜が開花するのが石垣島で、ここから桜前線は北上します。石垣島で開花した『さくらねこ前線』を北上させ、全国にTNR活動を普及させたいという想いを込めて名付けました」。

そしてうれしいことに、この「さくらねこ」が、日本のブランディングを評価する初のアワード「Japan Branding Awards 2019」(株式会社インターブランドジャパン主催)でWinners 賞を受賞。大手自動車メーカーや医療機器メーカーをはじめ10社が受賞し、そこに「さくらねこ」も並ぶことになった。

猫を見守っていると知ってもらうきっかけに



授賞式での記念の1枚

「長年に渡るTNR活動では、『自然に反する』といった不妊手術への異論、猫の耳先をカットすることへの誤解や批判、保護活動を行っているボランティアさんたちへの無理解など、問題はたくさんありました。

そこで『さくらねこ』を、猫たちに生きてほしいと願う人々の“心や命を大切に考える”の現れと捉えてもらい、さらに多くの人に『さくらねこ』を知ってもらいたいという願いから、ブランディングに取り組み、アワードに参加しました」

名だたる企業や団体が多く参加する中、『さくらねこ』が受賞したことは、ボランティアさんや獣医さんなどTNR活動に関わる方々の誇りになる。

「もっと世の中にTNR活動への理解を広め、『さくらねこ』のそばには優しい人たちがいて、猫たちを見守っていることを知っていただくきっかけになれば、と思います」

（「猫びより」から）